



# 共生の時代

'07  
4月

●発行:グリーンコープ連合理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)2769

## 各会員生協で 自生GMナタネ汚染調査活動 実施中



食べない! 作らない! 作らせない!  
調査監視活動、今年で3年目です

## Contents

自立へ向かうネグロス	
21世紀へ向けた民衆農業創造計画 (PAP21)	2
うちのメーカー・うちの生産者 ②	
綾豚会 安心・安全にこだわる産直豚肉	3
組合員の暮らしを応援する新たなたすけあい活動	
「家計とくらしの応援活動」がスタートします	4・5
2006年度 脱原発学習会	
放射能がクラゲとやってくる 「放射能を海に捨てないで」と言い続けよう!	6
グリーンコープかごしま生協発	
デイサービスセンター「みどりのお家 伊敷台」が開所	7

## 地域密着型で楽しく生きよう!



グリーンコープ生協ふくおか組合員 **岡本 悦子** さん

**プロフィール**  
生まれも育ちも北九州。長男の誕生を機に専業主婦となる。「読み聞かせ」「科学遊び」など小学校を中心としたボランティア活動に励む。現在三男の通う小学校のPTA会長、母校の同窓会会長、女性幹事などを務める。夫と認知症の義母、長男(高3)、二男(高一)、長女(中2)、三男(小5)の7人家族。現在北九州市八幡西区在住

**「で** きていいからPTA活動にかかわってね。そんな言葉に誘われて、未っ子の入学と同時にPTAの役員を引き受けたのが今から4年前。副会長を2年、そして会長に。岡本さんの場合、地域の人々との関係がごく自然な、PTA活動への入り口となった。少し前までPTAの仕事は、このように人とのつながりの中で引き継がれていた。とはいえ委員会の長や執行部の役割は敬遠されがちだ。最近では「大変さはみんな同じ。だから、公平にくじ引きで」となることもある。そうなる、PTAの活動が義務的になり、形骸化しかねない。プラス思考で捉えてみると「大変さ」の中には、人との関係が織り成す世界があり、それを楽しむことは岡本さんの信条でもある。その役

が「会長」であつても気負いはない。PTA会長をしてい「よかつたな」と思うのは、地域の中に足場があると実感できるから。「これこそが宝」と瞳を輝かせる。活動をする中で、隠れた人材を発見した時などは、主婦の潜在能力の高さに驚かされ、得した気分になりひたる。しかし、自分はまだまだひよつこだと感じることもある。「PTAの役回り顔を出すようになった女性団体連絡協議会では、年長の人たちが現役で元気ハツラツに頑張っています。その人たちとのふれあいがとっても励みになるんです。あんな風に歳を重ねたい」。身近なところに生き方のモデルがいることがうれしい。

そんな岡本さんがもつとも影響を受けたのが、「人が嫌がることをすんでできる人になつてほしい」という母親の言葉だ。それを素直に聞けない子ども時代もあつたが、その言葉は確かに人との関係をよりよく循環させてくれた。そして今、「子どもが好き、人が好き、自分が好き」と思える。「失敗したこともたくさんありますが、子育てや地域の活動とおして、いろんな人と出会うことができる。それを誰より自分自身が楽しんでいきますね」。基本的におせつかいだと自負する岡本さん。挨拶を返してくれない人には追いかけて顔を覗き込み「こんにちは!」と笑いかけ

ることも。「手弁当で地域にかかわることは立派な社会貢献。それが自分の満足にもつながり、誇りにもなります」。地域の中でいろんな人たちが生き生きとふれあう風景を思い描きながら、今日もPTA活動やボランティア活動に奔走する。「これからも人と人の橋渡しをしなが、地域密着型で生きていきたいです」と、八幡のシンボル・帆柱山を背にほほえんだ。

25年前、柳川の柳下村塾(無名舎) 託児所を訪ねた。同所刊行の「複数の母たち」という本を読み、行きたくなった。ちょうど「食べもの共同購入会」立ち上げの時期。訪ねた日、私にも会員拡大に行くように言われ担当者同行した。夜、否、明け方までその反省会。武田桂一郎氏は怒っていた。「どうしてちゃんと配達できないのだ!」と。私にまで意見を求められ、安全な食べものを真剣に待っている人たちのことを考えたらいいのではないかと答えた。武田氏は相手のことを思うだけではアジア的な共同体の差別や、支配の構造を変えることはできないと言われた。「生協をしないさい」「これからは生協の時代だ」とも言われた。その言葉は記憶の底に。グリーンコープに入り、設立者が武田氏であることを知った。氏の言葉と共に託児所であったミルクハート麦茶と胚芽パンの味わいが甦った。グリーンコープ生協おおい理事長

## 送 信

萱嶋 教代

# 自立へ向かうネグロス



## 21世紀へ向けた 民衆農業創造計画 (PAP21)



1985年、フィリピン・ネグロス島の人々が飢餓に襲われ、多くの子どもたちが死んでいるという叫びが日本に届きました。ネグロスの緊急支援に日本ネグロス・キャンパイン委員会（以下、JCNCC）が立ち上がり、グリーンコープもその取り組みに呼応してきました。ネグロスとの連帯は「南と北の共生」そのものです。緊急支援からはじまったJCNCCの活動は、その後、地域自立を目的とした活動へと展開してきました。その取り組みの一つに「21世紀へ向けた民衆農業創造計画」（以下、PAP21）があります。10年にわたるPAP21運動のこれまでを振り返ります。

スペインによる植民地時代にさとうきび農園や工場が作られ、一握りの大地主だけが利益を独占する体制ができたネグロス。化学肥料や農薬の多量投入で土地は疲弊し、さとうきび労働者は自給用の作物を作る権利さえ奪われていた。飢餓救援からはじまったネグロスとの連帯は、民衆交易事業を生み出すと共に、JCNCCを中心としたさまざまな救援活動を展開していった。紆余曲折を経てネグロスの人たちが中心となった自立運動へと行き着いた。それが、PAP21運動だった。



互いの農地を訪ねて、野菜の栽培方法などを学びあい、有機野菜作りに熱心に取り組む農民たち

### PAP21の課題と到達点

① 家族農業による作物の多様化  
家族農業の実践により、

さとうきびだけに頼るという意識からの脱却をめざすと共に、家族・村・島内レベルの食料自給を高めることを目的とした。サンフリアン、ピノブハン、メレセデス、ローデス、イリハン、シアソン、アランヒランの7つのパイロット地域での農業技術や経営指導、灌漑設備の整備、技術セミナーや農民交流などを行ってきた。野菜栽培などと畜産を組み合わせた複合農業を実践し、一定の収入が確保できるようになった。

② マーケティング  
作った野菜を売るという販売ルートの確保があつてはじめて農業に参加する、元さとうきび労働者も多い。教会のミサの後、毎週、自分たちが市を開き、そこで有機野菜のよさや、料理の仕方を説明しながら売ることができるようになった。このことで、一般市場や流通機構以外にも市場を開拓できる可能性を見出すことができた。

③ 女性プログラム  
PAP21地域の課題は農

### PAP21運動の歩み

1993年	• PAP21構想の協議開始 個人農業か協同農業か、優先すべきは政治課題か経済活動か、コンセプト作りで激論を交わす
1994年	• PAP21委員会立ち上げ
1995年	• 7つのパイロット地域を選定 住民参加型調査を実施、地域ごとに開発計画を立案
1997年	• 活動方針を見直し 市場の生ごみ堆肥化事業 カバンでの養殖事業 サンフリアンでの農業生産を重点的に行う
1999年	• ツプラン農場6か月研修実施 • エスベランサ農園で、農園主との厳しい土地闘争がはじまる
2000年	• ツプラン農場にBMWプラントが完成
2001年	• ツプラン農場6か月研修実施
2002年	• 家族農家の育成と、その自立農家による協同組合の形成を目標とする新しい方針を打ち出す
2003年	• エスベランサ農園で地主側の発砲により、ジョニー・ガイランさんが死亡 エスベランサ農園支援キャンペーンを展開 • ネグロス・セブ農家交流 セブ島トレード市の家族農家による作物多様化、マーケティング事業を視察
2004年	• ヘルベッチャ教会での産直朝市がはじまる • 農村女性調査を5地域で実施 データをもとに女性プログラムを策定 • PAP21スタッフが日本での産直、産消提携の取り組みを視察
2005年	• ネグロス・セブ農村女性交流 日本の農村女性7人参加



有機栽培で育てた野菜の料理方法を伝え、直接消費者と交流しながら野菜や加工品などを売る農民

PAP21運動は農業を軸に、自然や地域間の循環システムをつくってきた。それによって、地域に協同する力が生まれ、社会ができた。自営農家の連合をつくり、お互いの経験や技術を分かちあい、自分らに続く仲間を増やそうとしている。経済的に安定するだけ

「私たちは魚がほしいのではない。魚を獲るための網がほしい」という叫びからスタートしたPAP21。10年を経て、確かにネグロスの人たちは、未来へ向かって自立への道を歩み続けている。

地改革後の農業・地域をどう作っていくかだった。地域社会は、依然として男性中心で、女性たちは寄りあう場を確保することさえ難しい状況だった。そこで、各地域の女性たちが出会い、自分たちの抱える問題を提起し話しあう「寄りあい」を開催した。その中で女性たちは、女と男、妻と夫、家族と地域が共生していく道を考えた。そのために、女性たちは本来備わっている自身の役割や力を発見し、自覚していくプロセスとしてワークショップを開催し、地域のリーダーを養成した。それによって、有機農業、害虫予防、食品加工などの生産活動へとつながり、女性本来の役割を十分に発揮できるようになった。

消費者に直接販売する産直のシステムができ、有機農作物や産直に関心をもつ消費者の存在、消費者グループを組織化し協同組合をつくる可能性も確認できた。食へものに関心を持つ消費者を育てるために、行政とも連携して大人や子どもに対する食育・食農教育にも力を入れていくことも必要になっていく。

「さとうきび労働者から自立した農民へ」は、JCNCC設立以来の課題だった。実現までに20年近くかかったのは、技術や資金の不足ではなく、植民地時代の何世代にもわたる労働者意識、農園独特の文化に要因があつた。まだ零細ではあるが、家族農業を実践する農民を創出したことが、PAP21運動の最大の成果だ。それらの農家では、個人の意識や家族関係を含む生活全体に変化が現れている。女性が家族や地域の意思決定の場に積極的に参加するようになり、男性が家事を担うことも多くなった。

でなく、働き甲斐を感じる、時間を自分で管理できる、夫婦での会話が増えたなど、農民らの自信へとつながっている。



**うちの生産者**

**72**

宮崎県東諸郡綾町  
農事組合法人  
綾豚会

**うちのメーカー**



《綾豚会会員》  
押田 明さん(会長)、江島 鉄郎さん  
小森 光弘さん、吉田 喜久男さん  
押田 一郎さん  
今村 喜一さん(準会員)  
遠藤 威宣さん(準会員)、吉井 義彦さん(準会員)



# 綾豚会

安心・安全にこだわる



宮崎県綾町は、自然生態系を生き育てるための独自の憲章を持ち、照葉樹林、有機農業の町として全国にも名を馳せている。町が一体となってすすめている農業体系の中に養豚業があり、その重要な役割を担っているのが「農事組合法人綾豚会」(以下、綾豚会)だ。

産直豚肉の生産者グループの一つである綾豚会を訪ね、代表理事の江島鉄郎さんをはじめ、3人のメンバーに話を聞いた。

## 安心・安全を求めて綾豚会がスタート

今から約30年前、公害や環境汚染、輸入豚肉への抗生物質やホルモン剤の残留が問題になりはじめていた頃、近隣で養豚業を営んでいた若者たちが、「安全な養豚とは？」についての勉強会を発足させた。「有吉佐和子の『複合汚染』に影響を受けました。衝撃的でしたね。あの瞬間から私たちの養豚への向かい方が変わりました」。それが綾豚会のはじまりになったと江島さんは言う。勉強会では、「食べて安全な豚肉とは？そんな豚肉を生産するためには？」など熱く検討を重ね、メンバーが出した答えは「飼料にこだわる」ということだった。それは自前で飼料工場を持つということを意味していた。



小森 光弘さん

「負債を抱えての出発でした。飼料を自らつくるというのは、当時の常識では考えられないことでした。畜産にはお金がかかると言われていましたから、なおさらです」と、小森さんは苦しかった頃を振り返る。構想から5年で自家配合飼料工場が完成した。

会った。1981年の年末から月に約20頭の取引がスタートした。価格は100gあたり約900円という高額の豚肉だったという。グリーンコープになり供給数が増えたことから価格も安定し、今では月に1700頭の豚を出荷するまでに



遠藤 太郎さん

グリーンコープとの産直関係が深まってきた1992年1月、豚舎が火事になり子豚1200頭が焼死した。「大変な火災事故に、組合員のみなさんから600万円以上のカンパと寄書が届き、感動しました。小さな子どもさんからのカンパもありました。また、2000年宮崎で発生した口蹄疫で2カ月以上出荷ができなくなった。肥育期間が長くなった豚で「スペシャルポーク綾」などの新商品

をつくり供給対策を打ったグリーンコープに江島さんは信頼を寄せる。こだわりの養豚がめざすもの 地球と健康にやさしい農業をめざす綾豚会のこだわりは「自家配合飼料」にある。豚にとって一番望ましい配合にしているから、元気が安全な豚が育つのだ。豚はともデリケートで飼育期間のストレスが肉質に影響しやすい生き物だ。そのため、密飼いしないよう、自然の陽の光や風が入る、ゆつたりとした開放型の豚舎で飼育している。もちろん必要のない薬剤も使用していない(子豚期は病気に罹りやすいため抗生物質やワクチンの使用を認めている)。

「食べて安全な豚肉とは？そんな豚肉を生産するためには？」など熱く検討を重ね、メンバーが出した答えは「飼料にこだわる」ということだった。それは自前で飼料工場を持つということ



代表理事 江島 鉄郎さん

飼料にこだわった豚肉の販路を求めて、メンバーは北は仙台から南は鹿児島まで駆け巡った。知りあいやツテを頼ってデパートやスーパーなどへ豚肉を抱えて売り込んでいったが、豚肉の安全性をアピールしても当時は中々受け入れてもらえなかった。そんな時にグリーンコープの前身生協と熊本で出

会った。1981年の年末から月に約20頭の取引がスタートした。価格は100gあたり約900円という高額の豚肉だったという。グリーンコープになり供給数が増えたことから価格も安定し、今では月に1700頭の豚を出荷するまでに

グリーンコープとの産直関係が深まってきた1992年1月、豚舎が火事になり子豚1200頭が焼死した。「大変な火災事故に、組合員のみなさんから600万円以上のカンパと寄書が届き、感動しました。小さな子どもさんからのカンパもありました。また、2000年宮崎で発生した口蹄疫で2カ月以上出荷ができなくなった。肥育期間が長くなった豚で「スペシャルポーク綾」などの新商品

をつくり供給対策を打ったグリーンコープに江島さんは信頼を寄せる。こだわりの養豚がめざすもの 地球と健康にやさしい農業をめざす綾豚会のこだわりは「自家配合飼料」にある。豚にとって一番望ましい配合にしているから、元気が安全な豚が育つのだ。豚はともデリケートで飼育期間のストレスが肉質に影響しやすい生き物だ。そのため、密飼いしないよう、自然の陽の光や風が入る、ゆつたりとした開放型の豚舎で飼育している。もちろん必要のない薬剤も使用していない(子豚期は病気に罹りやすいため抗生物質やワクチンの使用を認めている)。

## 綾豚会の産直豚飼育のながれ



病気に強い豚を育てる第一歩は母乳の授乳期間をより長くすること。一般は生後25日以内だが、グリーンコープは27日以上としている

**子豚期** 60~80日齢

- 子豚期から出荷までの全飼育期間同じ飼料を与える
- 魚粉などを配合することもあるが、動物由来(哺乳類、鳥類)の原料は使用しない



開放型の豚舎でのびのびと育てる(1頭あたり1㎡以上)

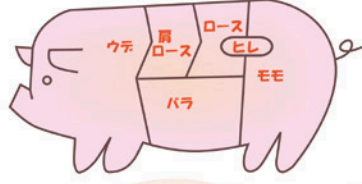
- グリーンコープの産直豚は合成抗菌剤や成長を促すホルモン剤などは一切使用しない
- 抗生物質も100日齢以降は使用しない

**出荷** 180~210日齢

代表的なnon-GMO飼料原料	
穀類	油粕類
non-GMOトウモロコシ	non-GMO大豆粕
non-GMOきな粉	non-GMOなたね粕

※トウモロコシはPHF(外国からの輸入農産物に収穫後散布される防カビ剤や保存料などの農薬を散布していない)

## ~部位の特徴を知っておいしく食べよう~



- ウテ** 肉質のきめが粗めで、コクがあるので、焼き豚、シチュー、しょうが焼きに
- 肩ロース** 中間的な肉質で適度な脂肪のコクが味わえる。とんかつやローストポークに
- ロース** 適度に脂肪があり、柔らかい歯ごたえ。ソテーや、鉄板焼きなどに
- バラ** 脂肪が多くこってりとした味わい。角煮、カレーや炒め物に
- ヒシ** 最もきめが細かく、あっさりした味わい。ソテーやとんかつに
- モモ** 脂肪が少なく柔らかい肉質。ソテーや網焼き、ローストポークなどの料理で

# 「家計とくらしの応援活動」が



## 組合員の暮らしを応援する新たなたすけあい活動

グリーンコープは、新しい地域の創造と「地域の再生」をめざし、地域福祉に取り組んできました。その中で多重債務問題が地域社会に広がっており、身近に発生する問題であることを知りました。そのような社会状況を受け、グリーンコープはたすけあいの取り組みの一つとして、生活再生事業に取り組みを確認。現在グリーンコープ生協ふくおかで、具体的な事業が開始されています。

生活再生事業は「金銭教育事業」「消費生活支援事業」「生活再生相談事業」「生活再生貸付事業」を4つの柱としています。その中の「金銭管理教育」や「消費生活支援」を組合員自らの手で行うのが「家計とくらしの応援活動」です。2007年1月10日にグリーンコープ連合理事会(第十四期第8回)で確認された答申の概要を紹介します。

### ライフプランとは

「生涯にわたって充実した人生を送るために、将来の生活状況や環境の変化を予測して作成する現在および将来の生活設計」をプランニングすることです。人生の設計を家計の問題と結びつけてプランニングする技術を、特にライフプランニング技術と言います。

グリーンコープの「家計とくらしの応援活動」はこれまでのライフプランニング活動に加え、このライフプランニング技術と暮らしの中の「金銭問題」についての知識をあわせて、学び活用する活動を意味しています。

### 情報と物が溢れる社会の中で 家計と暮らしを考える

家計をめぐる経済状況はいよいよ厳しい時代を迎えています。現在、日本中の多重債務者の数は230万人を超えると言われております。グリーンコープ生協ふくおかでスタートした「生活再生事業」では、多重債務状態を解決するだけでなく、その予防と事後のサポートや健全な経済生活の継続に取り組んでいます。2006年8月21日に開設された生活再生相談室では、開所3カ月で約300件の電話相談があり、そのうち債務整理相談が約190件となっています。

このように、組合員の家計をめぐる状況は、日々厳しさを増し、変化しています。家計を管理するライフプランニング技術や、消費生活に関する予備知識、消費社会の落とし穴に対する予防意識など(例えば貸金業規制法など)がないために、不利益を被り、だまされてきた社会的被害者もたくさんいます。

### 「家計とくらしの応援活動」の必要性について

- (一) 社会経済状況が大きく変化する中で、これまでの常識や生き方の見直しが必要とされています。高度経済成長時代に作られた、これまでのスタンダードな生き方のモデルである、「雇用される働き方」、「みんなと一緒に横並びで安心」、「終身雇用」、「年功序列賃金」といった考え方や仕組みが成立しなくなっています。
- (二) 父親が働き、サラリーを得ることで家計収入を維持し、母親が節約しながら家計を守っていた時代から、皆が働きに出て、皆が収入を得る時代へと変わりました。
- (三) 加えて、価値観も多様化しています。持ち家にこだわりたい人、食事や健康第一を大切にしたい人、子どもの教育費を優先したい人、まずは自分の生活を楽しまたい人、とさまざまなニーズがあります。衣食住はもちろん、子育てから老後まで、教育、医療、介護、娯楽なども多様に商品化され、何につけてもお金がかかります。購買欲を掻き立てる情報が氾濫し、お金がなくてもいつでも何でも買える時代でもあります。
- (四) しかし、そのお金の入り方・使い方に関する家計管理は、ほとんどの家庭で母親任せになっており、家族で話しあわれることはありません。その結果、母親は過剰な責任感から家計の現状を誰にも知らせず一人で抱え込み、家族の誰も家計の現状に関心を寄せないまま、家族の希望にあわせて、家計はどんどん膨張していきます。
- (五) これまで金銭管理(家計管理)教育は、父母から子どもへと家庭の中で行われてきました。しかし、商品の販売方法もインターネットや通信販売など多様化し、商品代の支払いも振込みやクレジットと多様です。昔ながらの家計管理の常識で、親が子どもに教えることが困難な時代になっています。
- (六) とりわけ金融ビッグバン以降、「自己責任」が声高に叫ばれる社会になっていきます。横並び意識で、みんなと同じよう

に生きていけば安心という時代は終わりました。それぞれの家庭の生き方に合わせて、家族全員で収入の現状やお金の使い方を話題にし、相談する必要があります。

(七) 自分と家族の生活を守り、自分らしく生きていくために、自分と家族の「ライフプラン」が必要です。そして、「ライフプラン」を考え実現していくためには、生活していく上で一番基本的な「お金の問題」と向きあい、自分と家族の生き方を「ライフプラン」として家計から考えていくことが必要です。

### 組合員の新しい活動の場として

(八) 不透明で不確実な、見通しが立てにくい時代だからこそ、自分らしく生きていくために、生活に必要な金銭問題について必要な知識を組合員みんなで共有し広め、一人ひとりが自分らしく考えていくことができるように、たすけあうことが必要です。

(九) 同時に、詐欺や欺瞞が横行する社会であり、被害を被らないための努力も必要です。ライフプランニングも取り入れた金銭管理教育がとて必要な時代と言えます。

以上のような経済的な暮らしの課題に向きあい解決していくために、グリーンコープは新しい組合員の活動として「家計とくらしの応援活動」の立ち上げをすすめます。

組合員を対象とした活動をより広げるために、具体的な活動の担い手として、ワーカーズを立ち上げてすすめていきます。「家計とくらしの応援活動」が継続していくために、また組合員がやりがいをもって担う新たな活動の場として、「家計とくらしの応援ワーカーズ(仮称)」の組織形成をめざします。

会員生協ごと、またはエリア(地域・地方)ごとではなく、オールグリーンコープを横断するワーカーズ組織として、グリーンコープと連帯しながら主体的に運営し、活動の場を広げていきます。



# 「家計とくらしの応援活動」プロジェクト答申



## 具体的な活動内容

■「金銭管理教育」と「消費生活支援」をテーマとする学習会や講演会を生活に身近な場で開催します。

「家計とくらしの応援活動」の地域や組合員向けカリキュラム

カリキュラム	所要時間	内 容
レッスンⅠ (基礎編)	90分×1回	<b>A金利に関する基礎知識</b> ○利息制限法と出資法（貸金業法改正後は別途） ○ローン返済方法と金利計算
		<b>Bカードのしくみ</b> ○クレジットカード ○リボ払い ○キャッシング ○携帯電話によるクレジット利用（電子マネーとお財布携帯）
		<b>C消費者金融と多重債務について</b> ○多重債務問題の社会的な背景 ○高金利・過剰融資・過酷な取り立て ○ブラックリスト（個人信用情報機関）について
レッスンⅡ (応用編)	90分×2回	<b>D生涯の家庭生活にかかる必要な生活資金の費用と、節約方法</b> ○結婚・出産費用、教育費用、住宅費用、税金、水道光熱費、医療費用、交通災害費用、損害・生命保険、老後・介護の費用
		<b>E借金をしない経済生活の家計管理</b> ○金銭管理の実践方法（収入と支出のバランス管理） ○給与明細や源泉徴収票の見方 ○ライフプランニング（ライフイベントとキャッシュフロー表） ○情報の収集方法と選択できる力のつけ方
		<b>F生命保険・社会保険の基礎知識</b> ○保障の見直し ○公的年金制度 ○高額医療保険の請求
レッスンⅢ (もしもの時の対策編)	90分×1回 (希望があれば2回)	<b>G多重債務の債務整理方法</b> ○自己破産他、4つの整理方法 ○保証人の責任他、法律知識
		<b>H消費者金融対策とヤミ金対策</b> ○弁護士・司法書士・裁判所の役割と活用 ○警察の役割と活用
		<b>I悪質商法や金融商品トラブルから身を守る方法</b> ○消費者契約法とクーリングオフ制度 ○特定商品取引に関する法律 ○金融商品販売法 ○救済に関する諸機関の主な役割 グリーンコープ生活再生相談室 消費生活センター 司法支援センター 裁判所 警察署 福祉センター（生活福祉課・子ども福祉課・他）
		<b>J公的な福祉基金の諸条件</b> ○県・市町村による融資制度 ○奨学金制度の利用
		<b>Kその他</b> ○DV問題への対処法 ○成年後見人制度

以上のカリキュラムは、地域組合員からの学習会開催希望申込により開催します。

■地域や組合員向けの学習会・講演会を担当するための組合員講師の養成講座も企画します。

## グリーンコープらしく「家計とくらし」を応援したい

グリーンコープでは、この活動の立ち上げに向けてプロジェクトを組み、2006年9月から12月にかけて検討を重ねました。これまでのライフプランニング活動を越え、時代に即応し組合員自身の経済生活を自衛することをめざす新しい組合員活動について、期待や夢を語りあいました。

- 自分の生活が見えるように学ぶ場、トータルな暮らしの応援ができる場であってほしい
- 夫婦で家庭の中で金銭教育ができるような活動、家庭や地域に持ち帰れる内容であってほしい
- 人生全般にわたって必要となるお金は何か、どれくらいかを知り、将来を見通すことができるように
- 消費生活上の落とし穴、詐欺や欺瞞や偽装の手口、だまされやすいお年寄りへの配慮などを学びたい、など

プロジェクトでは、「家計とくらしの応援活動」の方向性について、以下のようにまとめています。

- 1. 組合員の生活に根ざした学習会を準備する**
  - 組合員同士の体験や学びを共有できるように
  - 学習会、講演会を開催し、広く浅く学習できるように
  - ライフステージごとの経験交流もできるように
  - 子ども、青少年にいかに関心を持たせ得るかを考えていく
- 2. お金の問題について、全般にわたり学べる場を準備する**
  - 失敗のないお金の使い方
  - 金銭管理教育
  - グリーンコープを使った家計管理（共済も含む）
- 3. 「家計とくらしの応援活動」に向けての推進主体を準備する**
  - 経済生活をすすめていく上での技術の獲得
  - 「家計とくらしの応援ワーカーズ（仮称）」の育成
  - 以上の技術を身につけてワーカーズ活動としての収入の道をさぐる
- 4. 困難に直面した時に、個別に専門的に相談する場の紹介**
  - 定年、年金、貯蓄について
  - ライフイベントにかかる費用の把握（出産・入学・介護・冠婚葬祭など）
  - 多重債務や借金についての基礎知識の学習と専門的な相談先の紹介
- 5. ふくおか以外のグリーンコープでの生活再生事業について検討を準備する**
  - 生活再生相談室の出張相談会
  - 女性支援、母子家庭の就労支援などの生活問題の解決など

1～4を当面の「家計とくらしの応援活動」の柱とし、立ち上がった後の検討課題として5を付加しました。

スタートします



2006年度 脱原発学習会

グリーンコープ連合組織委員会

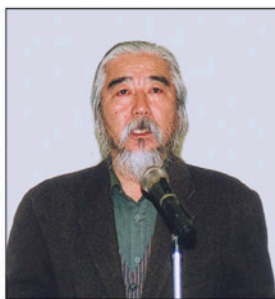


講演 放射能がクラゲとやってくる

「放射能を海に捨てないで」と言い続けよう!

青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場は、各段階の試験を経て本格稼働へと向かっています。使用済み核燃料を再処理すると工場から大量の放射能が廃棄されます。1日運転するだけで原発1基が1年で放出する量に匹敵する放射能を大気中、海中に廃棄すると言われています。放出される放射能の管理目標値は国から許可されていますが、はたしてほんとうに安全なのでしょうか。

2007年2月1日、再処理工場の問題点を海の汚染からとらえようと、これまで漁業と原子力発電所の問題に取り組んできた水口憲哉さんを講師に福岡市で学習会が開催され、組織委員をはじめ、組合員88人が参加しました。講演要旨を報告します。



講師 水口 憲哉さん

1941年中国・大連生まれ。東京海洋大学名誉教授。農学博士。人と魚と水の関係について研究している。1970年より原子力発電所、火力発電所、ダム建設などの開発に揺れる漁民たちの研究会に参加。著書に「放射能がクラゲとやってくる」(七つ森書館)「海と魚と原子力発電所」(農文協)などがある。

問題を抱える再処理工場

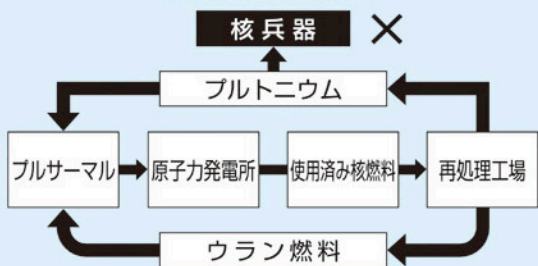
再処理工場の第一の問題点は、核兵器の原料となるプルトニウムを生産するということだ。また、大事故が起きたら原水爆投下と同じような被害が起こる。すでに国は事故が起きた場合、風下地域における死亡人数等の試算を行っている。しかし、その対策は何も示していない。

放射能はなくならない

公表されているデータをもとに「三陸の海を放射能から守る岩手の会」が試算した。すると、再処理工場の廃液が口から体内に入ったと仮定した場合、1年間の放射線量は約47,000人分の致死量に相当することが明らかになった。そのことに対し、再処理工場を運転する日本原燃(株)は、「廃液を直接飲むことはあり得ない。しかも放出管(沖合3km/水深44m)から排出されるため、大量の海水で薄められるので危険ではない」という考え方を示した。これは「廃液中

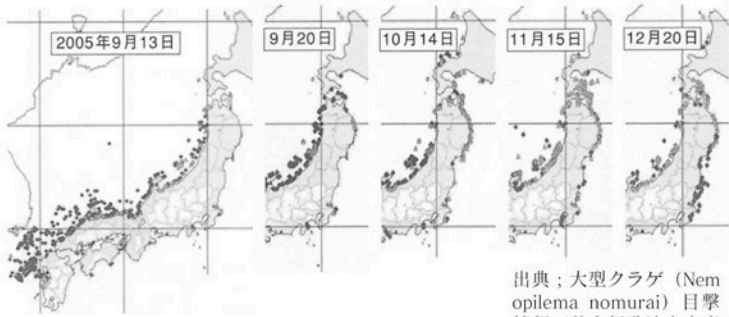
次の問題として、再処理工場は普通に運転するだけで日常的に放射能を大気中、海中に廃棄するという点だ。しかし、この事実をマスコミを含めて信じようとしな

再処理工場とは?



原子力発電所の使用済み核燃料の中から、ウラン燃料とプルトニウムを分けて取り出し、再び燃料として使えるようにすることを再処理と言う

大型クラゲ目撃情報マップ



出典：大型クラゲ(Nemopilema nomurai)目撃情報(独立行政法人水産総合研究センター日本海海区水産研究所、2005年)より作成

再処理工場から放出される放射能の拡散状況調べのため流された葉書

2005年、東シナ海から日本海域に大発生したクラゲがこのことをはつきり証明した。クラゲは海流に乗り、津軽海峡を経て太平洋へ抜け、岩手、宮城、福島、茨城の海岸へと流れ着いた。最終、利根川河口の流れに遮られ銚子沖付近に留まった。まさにクラゲは六ヶ所村付近に廃棄された放射能がどうなるかを示したと言える。

2002年8月末、再処理工場建設に反対する市民団体「再処理止めよう!全国ネットワーク」が、放出管のある六ヶ所村沖3kmの海上から1万枚の葉書を流し放射能の拡散状況を調べた。その結果、遠くは千葉県房総半島まで流れ着いたことが確認された。これは廃棄された放射能は海流に乗って海岸線を汚染するということを示している。

生命の視点で訴えよう

深刻な放射能汚染という事実には、不安を抱き共鳴しあう人たちがいる。その人たちが連帯していくことから運動が生まれる。漁業や農業に従事する人やその生産物を消費する人たちが、今ある事実を知り、さらに多くの人に知らせ、「海に放射能を捨てないでください」と言い続けることが大切だ。何か特別なことをするのではない。「生命が大事」という訴えに国や電力会社は、どんな言葉でも、どんな根拠を示しても反論することはできないはずだ。難しく考えず、一人ひとりがそれぞれの場で、この当たり前のことを訴え続けることが大切なのだ。





# 自宅にいるように ゆったりと



左から、吉田文子会長、かごしま島原良子理事長

2007年2月6日、デイサービスセンター「みどりの家 伊敷台」が鹿児島市内の閑静な住宅地の一角に開所しました。組合員とワーカーズの夢がカタチになった、かごしまとしてはじめてのデイサービスセンター開所までの検討のようすを報告してもらいました。

かごしまは組合員・ワーカーズの願いであるデイサービス事業の具体化としてデイサービスセンターを位置付けました。開所までの道のりは紆余曲折ありましたが、福祉活動組合員基金の助成を受けて開設に至るまで6年を要しました。

まずは、物件（土地）探しです。居宅介護支援事業との連携が必要とのことで市内を探しました。デイサービスセンターに適した条件（手頃な価格・利用者が通うのに便利な場所など）をクリアする物件がなく、確定までは思いのほか大変でした。やっとかごしま本部事務所に程近く、周りに遮るものがない角地で駐車場も確保でき、にもかかわらず、少し形がいびつな分価格が抑えられたなど、事業を展開できる条件に合った所に出会えました。

物件探しと同時に進行で、2006年5月の理事会で確認後、プロジェクトを立ち上げて検討を深めていきました。基本プランを考えるにあたり、まずはプロジェクトメンバーでグリーンコープ生協くまもとのデイサービスセンター「ゆるりの家」の見学に行きました。使い勝手や間取りなど設計に関するだけでなく、ワーカーズの働き方や利用者への配慮など多くのことを学びました。ワーカーズの地域福祉に対する思いを私たちが決めた。頑張ってほしい」との言葉はほんとうにうれしく、だからこそ期待を裏切らないようにしたいと思いました。

「家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと過ごしていただく」「その方（利用者）に寄り添う」地域のデイサービスセンターとして存在していきたいと考えています。

グリーンコープかごしま生協 副理事長 前門 京子



## 言・い・た・い

投稿欄

### 私の好きな花

**桜舞う頃に思う**  
四月生まれのせいかわ、冬の寒さが苦手な私は春がとても待ち遠しく、桜の便りを聞くたびに、「これで暖かくなるんだ」と、ウキウキして活動的になります。

通っていた小学校の校庭の周りに桜が並べて植えてあり、満開の時はとてもきれいでした。風が吹くと花びらが校庭に舞う、桜吹雪のすばらしい風景は美しい思い出です。樹齢何百年でも花を咲かせる桜もあると聞き、生命力の強さや、周囲の人々から大切にされてきたということを知ると、花や樹からいろいろなことを学ぶことができ、頭が下がる思いです。

広島県廿日市市 八尾 泰枝 (49歳)

### とっておきの一枚

どこでもパワー全開



パパの職場に遊びに行きました。お仕事しているパパはカッコイイです。ぼくは、どこでもパワー全開なのでママに叱られます。 大将 (3歳)

熊本市 牧 真由美 (37歳)

## 原稿募集中

- とっておきの一枚 家族やペットの写真にコメントを添えて
- 私の好きな花
- なつかしい味

●400字程度 ●毎月月末  
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送または FAX、Eメールでお送りください。  
掲載分には図書カード(500円分)進呈。  
●住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。  
〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8-36博多ビル7F  
グリーンコープ連合理事会室「共生の時代」編集部 宛  
FAX 092-481-2769  
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

## 原子力発電のない社会をめざして No.53

### ドキュメンタリー映画「六ヶ所村ラブソディー」を観て

鎌仲ひとみ監督のドキュメンタリー映画「六ヶ所村ラブソディー」を観た。青森県下北半島の付け根にある自然の美しい六ヶ所村。しかし、ここは高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設、低レベル放射性廃棄物の最終処分場や使用済み核燃料再処理工場など、全国原発から出される「核のゴミ」の大規模集積地でもある。中でも再処理工場は使用済み核燃料からプルトニウムを取り出す施設だ。そんな中で、六ヶ所村と、その周辺に暮らす人々がどんな思いでいるのだろうか。

推進派、反対派、そして受け入れたくないが、受け入れざるを得ないという容認派。それぞれの姿が「六ヶ所村ラブソディー」には映し出されている。自治体が受け入れを決めて20年以上。村の人々に与えられた試練の重さに悲しみと怒りを感じる。

何も考えずに電気を使う私たちの生活が、六ヶ所村の人々にプルトニウムと一緒に暮らすことを強いてしまっている。これでほんとうによいのだろうか。私たち一人ひとりが真剣に考えなければならない問題である。

再処理工場の本格稼働を止めよう。未来の子どもたちのためにも。

グリーンコープ連合組織委員会 平松 幹代

# ミュージカルって 楽しい!!

いま地域を考える

No.177



## ゆめっ子くらぶ



「ゆめっ子くらぶ」は鳥取県米子市を中心に活動しているミュージカルサークルだ。

2月11日、1年あまりをかけて準備や稽古を重ね、本番を迎えた「鳥取ミュージカルフェスティバル 主催：(財)鳥取県文化振興財団・米子市」での公演取材し、代表の小倉恵子さん(グリーンコープ生協とっとり組合員)をはじめ、メンバーに話を聞いた。



▲お寺の本堂を模した大道具の前で。前列右が小倉さん

30以上もの配役はオーディションで決めた

ゆめっ子くらぶの誕生は1995年。「夏休みに一緒に紙芝居でも作ろうか?」と小倉さんが当時小学4年生の長男に話したことがきっかけだ。自我が芽生えはじめ、反抗期真っ只中の子どもと親子で向きあいたい、と考えた。「友だちと劇がやりたい」という意外な一言で、当時大人気だったアニメ映画をも

### ミュージカルをやろう

ゆめっ子くらぶのある鳥取県は美しい自然にあふれ、古くからの伝統文化や神話、伝説が数多く伝わる場所だ。また、各地域では子どもミュージカルの活動も盛んだ。芝居・歌・ダンスから成るミュージカルは、役者と衣装や大道具など、舞台上で支える人々々が創り上げる集大成と言える。舞台上で練り広げられるストーリー展開に、舞台と客席が一体となる。それがミュージカルの魅力だ。

### 夢を叶えるために

「夢を持ち続けていれば必ず叶う。絶対あきらめない」は、ゆめっ子くらぶが発足以来持ち続けてきたポリシーだ。アニメをもとにした舞台を2年間続け、次

「またやりたい、次はもっといいものになりたい」という意欲につながりました。1回限りの予定が翌年にはさらに収容人数の多いホールで1100人を超す観客を集めた。



ミュージカル「不思議の森の三日坊主」より  
物語は、とある山寺に三日間の小坊主修行に来た主人公ひろしが次々と不思議な体験をする場面からはじまる。深い森の中で恐ろしい呪いをかけられ、400年もの間、生と死の間をさまよい続ける少年少女たちと出会う。その呪いを解くことができるのはひろしだった一人しかいないと知らされる...

### みんな未来をつくらう

「夢を持ち続けていれば必ず叶う。絶対あきらめない」は、ゆめっ子くらぶが発足以来持ち続けてきたポリシーだ。アニメをもとにした舞台を2年間続け、次に挑戦することに決めた。1997年のことだ。小倉さんはゆめっ子くらぶの脚本を劇団四季に頼もうと動いた。四季に紹介された。四季による初のオリジナル作品は「この世でいちばんのおおきなもの」。

ゆめっ子くらぶは子どもと大人を区別しない。その人がいなければできないこと、誰一人欠けてもできないことがあるからだ。きちんと挨拶をすること、年長者への言葉遣い、脱いだ靴を揃えるなどの規律が自然と身に付いていく。「一つの目標に向かってすすんでいくのはすばらしいことです」。子どもが大人を、大人が子どもを尊敬し、認めあう関係がある。それが舞台上で芝居や歌、ダンスに表現される。

「この世でいちばんのおおきなもの」。あんな風に、こんな感じで、と脚本家に語ったゆめっ子くらぶの思いが、1

1回限りとはじめたゆめっ子くらぶの活動を応援するサポーターは今や数え切れない程。役者と彼らを影で支える裏方と、応援してくれる人たち、そして客席と同じ空間と時間を共有する。大きな拍手、笑い声、時には涙をこぼし、一緒に歌う人もいる。「これまで多くの人に応援してもらってました。これからは自分たちが誰かを応援できるような存在になりたい」。ゆめっ子くらぶの夢に終わりはない。

## 放射能汚染測定結果報告(164)

2007年1月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※ 三陸わかめ	三陸	ND	ND	ND
※ かつお	太平洋	ND	ND	ND
※ やりいか	ベトナム	ND	ND	ND
※ カシューナッツ	インド	ND	ND	ND
※ アーモンドチョコボール	アメリカ	ND	ND	ND
※ 国産レモン	熊本県	ND	ND	ND
※ 国産レモン	福岡県	ND	ND	ND

## リユース リサイクル データ

2007年1月分

回収本数 **673,713本**  
回収率 **110.2%**  
(12月17日～1月13日回収分)  
牛乳びん

回収本数 **200,663本**  
回収率 **86.9%**  
リユースびん  
※現在供給本数のカウント方法を見直しています。

回収重量 **10,717kg**  
回収率 **60.6%**  
トレー

回収重量 **27,970kg**  
回収率 **107.7%**  
モールドバック

## 2007年2月の組合員数 369418人

(2/20現在)

- グリーンコープ生協ふくおか
- グリーンコープ生協さが
- グリーンコープ生協(長崎)
- グリーンコープ生協くまもと
- グリーンコープかごしま生協



- グリーンコープ生協おおさか
- グリーンコープ生協ひょうご
- グリーンコープ生協おかやま
- グリーンコープ生協とっとり
- まいにち生協
- グリーンコープ生協おいた
- グリーンコープ生協みやざき
- グリーンコープ生協ひろしま
- グリーンコープ生協やまぐち生協